

第1回 城南ホスピス緩和ケアのつどい

# よりよい コミュニティケアを めざして

誰でも、ご家族と一緒に、希望する場所で、  
良質な緩和ケアを受けられるために

特別講演 (2:35pm~)

講師 **山崎章郎先生** ケアタウン小平クリニック院長

「ケアタウン小平のコミュニティケア」

シンポジウム (4:10pm~)

「城南地域のコミュニティケアの現状とこれから」

2007年7月28日(土) / 2:30~6:00pm (開場2:00pm)

7  
28 土

- 場所 日本赤十字看護大学 201講義室
- 参加費 1000円 (事前登録は必要ありません、当日会場で申込み下さい。)
- 懇親会 6:00~8:30pm 会費3000円/場所:看護大学学生食堂(1階)
- 主催 城南緩和ケア研究会

事務局 渋谷区広尾4-1-22 日本赤十字社医療センター緩和ケア科 秋山 修  
TEL/03-3400-1311(内6013) FAX/03-3409-1604  
E-Mail/akiyama\_osamu@med.jrc.or.jp



# 第1回 城南ホスピス緩和ケアのつどいプログラム

## テーマ：よりよいコミュニティケアをめざして

－ 誰でも、家族と一緒に、希望する場所で、良質な緩和ケアを受けられるために －

日 時：2007年7月28日 土曜日 (2:30～6:00pm/開場2:00pm)

会 場：日本赤十字看護大学 201 講義室

参 加 費：1,000円

事前登録は必要ありません、当日会場で申込み下さい。  
懇親会に参加される方は懇親会費として3,000円をお願いします。

主 催：城南緩和ケア研究会

[事務局] 渋谷区広尾4-1-22 日本赤十字社医療センター緩和ケア科/秋山 修  
TEL：03-3400-1311 (内6013) FAX：03-3409-1604  
E-Mail：akiyama\_osamu@med.jrc.or.jp

■14:30 開会あいさつ 秋山 修(日本赤十字社医療センター緩和ケア科部長)

■14:35 特別講演 『ケアタウン小平のコミュニティケア』

講師 山崎章郎(ケアタウン小平クリニック院長、聖ヨハネホスピスケア研究所長)  
司会 秋山 修(日本赤十字社医療センター緩和ケア科部長)

16:00 ----- (休憩 10分)

■16:10 シンポジウム 『城南地域のコミュニティケアの現状と問題点』

司会 林 章敏(聖路加国際病院緩和ケア科)  
石原ゆきえ(昭和大学病院緩和ケアセンター)

シンポジスト

鈴木 央(鈴木内科医院副院長)  
池田麻理(おもて参道訪問看護ステーション看護師)  
茅根義和(日本赤十字社医療センター緩和ケア科)  
瀨瀬恵美子(NPO渋谷介護サポートセンター ケアマネージャー)  
ご家族(未定)

■17:55 閉会あいさつ 川畑正博(厚生年金病院緩和ケア科)

■18:00 懇親会 会費3000円 場所：看護大学学生食堂(1階)

20:30 ----- (終了)

敬称略

シンポジウム等の進行状況により時間が延長されることがありますがご了承ください



### 会場へのアクセス

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4丁目1番3号

TEL:03-3409-0875

- JR渋谷駅より都バス(学03)  
日本赤十字社医療センター行 10分 終点下車
- JR恵比寿駅より都バス(学06)  
日本赤十字社医療センター行 10分 終点下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅  
六本木寄り口下車徒歩15分
- 営団地下鉄日比谷線広尾駅より徒歩5分、  
病院工事のためお車でのご越しはご遠慮下さい。



## 第1回城南ホスピス緩和ケアのつどい報告

日本赤十字社医療センター 緩和ケア科  
秋山修

7月28日はとても暑い日でした。それにもかかわらず、日本赤十字看護大学には120名内外の参加者が集まり、講演と熱心な討論をし、有意義な会を持つことができました。

ケアタウン小平の考え方、現在の活動状況などを山崎章郎先生より特別講演として講演していただきました。これまで緩和ケア病棟でして来たケアは有意義なものであるが、がんだけを対象にしていることに問題がある、もっとほかの疾患にも適応すべきであること、スピリチュアルペインに対するケアは緩和ケア病棟では対応が難しく、よい対処方法がないか考え続けてきたこと、などを話され、それが現在につながっているとのことでした。医療、保険、介護などが一体となった地域に根ざした試みが少しずつ根を生やしている状況にあるとのことでした。

シンポジウムでは城南地域で活動している、医師、看護師、ケアマネージャー、MSWがそれぞれの問題点、課題などを話し、参加者と一緒になって、討論が繰り広げられました。現在在宅で闘病生活をされている方や、患者会の方からの貴重な発言もあり、在宅での緩和ケアをもっと充実するように、ボランティア活動など市民の力がもっと発揮できるようにする工夫や、行政にも働きかける必要なども話し合われました。

これらの議論を踏まえ、城南ホスピス緩和ケア研究会を計画する予定です。